

## 10項目の重点課題の現状・問題点等（参考資料）

### （1）乳幼児期における子育て不安の解消・虐待防止に向けた施策の強化

#### （現状・問題点等）

- 家庭内保育は、0～2歳児の約7割、3歳児の約2割。
- 本市でも児童虐待の相談件数は増加傾向。平成19年度の虐待者内訳では、実母が約66%、実父が約22%。
- 「次世代育成支援に関するアンケート調査報告書」によると、父親の子育てへの関わりが少ない家庭ほど、子育てに関する不安や負担を感じる割合が高い。

### （2）不登校・ひきこもり対策の強化

#### （現状・問題点等）

- 中学校における不登校生徒数は、平成11年度以降、毎年1,000人を超えている。
- 本市の不登校の割合は、中学校では全国平均よりも高い。
- 平成19年度の本市における小学校6年生から中学校1年生への不登校増加率は3.32倍。

### （3）コミュニティ活動の活性化と元気高齢者施策の充実

#### （現状・問題点等）

- 地域コミュニティでは、住民の自治意識の希薄化、地域コミュニティ活動を担う人材不足などが課題。
- 団塊世代の意識調査結果では、今後の暮らし方は、「これからも働きたい(60.0%)」「趣味を満喫したい(54.6%)」の順である。

### （4）ホームレス自立支援の充実

#### （現状・問題点等）

- ホームレスの全国実態調査（H19年1月）では、平成15年調査時点から全国的には減少している中、本市では増加（607人→784人）。

### （5）地球温暖化対策の推進

#### （現状・問題点等）

- 本市のCO<sub>2</sub>総排出量は790万7千トン（2006年度速報値）で、全国総排出量の約0.6%を占め、全国に対する人口の割合（約1.1%）と比べると少ない。
- 本市では、世帯数の増加や業務部門（事業所、店舗、学校等）の床面積の増大などの要因から、特に家庭部門及び業務部門において、CO<sub>2</sub>排出量の割合が大きく、全国を上回る伸び率2.5倍で増加。（全国：+11.3%、福岡市：+28.7%〔1990年度比の2006年度値〕）

### （6）緑あふれる美しい都市づくり

#### （現状・問題点等）

- 「身近な緑への満足度」の平成19年度調査結果は24.1%であり、この5年間で5.6ポイント低下。特に「民有地の緑が少ない」と感じる市民の割合が5割を超えている。
- 平成19年の市民アンケート調査では、緑を増やしたい場所として、天神地区が1位、次いで、博多駅周辺地区。

### （7）人材育成・集積の強化と「大学のまち福岡」の魅力向上

#### （現状・問題点等）

- 企業誘致は都市間・地域間競争が激化。企業にとって、「いかに必要かつ優秀な人材を確保できるか」が立地の最大の決め手。
- 本市の大学や短大の学生数は、少子化の進行に伴う18歳人口の減少等により近年は減少傾向（H15：83,397人 → H19：77,527）。

### （8）集客力の向上とコンベンション誘致の強化

#### （現状・問題点等）

- 延べ宿泊客数は、この4年間概ね480万人前後で横ばいの状態。
- 2011年春の九州新幹線全線開業や、2010年頃のKTX（釜山～ソウル間）の専用軌道化を契機に、九州・アジアとのさらなる交流拡大が見込まれる。
- 福岡シティループバス（市内の主な観光地を巡る循環バス「ぐりーん」）の運行が開始。
- 平成18年における国際コンベンションの開催件数は全国で3位。

### （9）海と陸の玄関口の整備推進と韓国をはじめとしたアジアとの連携強化

#### （現状・問題点等）

- 博多港の外国航路船舶乗降人員数が約85万人（H19年）と過去最高を更新。（10年間で4倍以上の伸び。）
- 博多港国際旅客ターミナル施設や交通広場が手狭になっている。
- 2011年春の博多駅ビルの開業。
- 韓国は最も近接したアジアであり、釜山広域市との連携を軸にソウルへのプロモーションを展開するなど、韓国との連携促進が必要。

### （10）景気後退、原材料等価格高騰への対応

#### （現状・問題点等）

- 福岡商工会議所の「地場企業の経営動向調査」では、平成20年度第2四半期（4～6月）の景況判断指数は、前期に比べマイナス9.4ポイントとなり、6期連続で悪化。
- 平成20年6月の景気動向調査（経済振興局によるヒアリング）では、原油価格の上昇に伴い、原材料、燃料等の価格が上昇している中、市内企業においては、運輸・倉庫業など、価格転嫁ができず、収益が悪化している企業がみられるとのこと。
- 漁業・農業において、漁船・園芸ハウス用の燃油や肥料、飼料等の価格高騰により経営が悪化。